

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵1-27-32 カイフビル7階

HD ニュース

No.13
2014.1.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 1月16日(木)18:00～ 木造技術研究会
- 1月21日(火)18:00～ マンション大規模修繕研究会
- 1月21日(火)19:00～ 研修会
- 2月4日(火)19:00～ 福祉医療研究会
- 2月5日(火)19:00～ 役員会
- 2月18日(火)19:00～ 相談委員会

謹賀新年

理事長 滝井幹夫

2014年を迎えて会員、賛助会員を始め、お付き合い頂いている全ての皆様に新年のご挨拶を申し上げます。

本会は創立から10年目に入りましたが、NPO法人として継続・発展を計る為には、様々な懸案事項を抱えております。

昨年10月の通常総会とその後の役員会で議論されましたが、各委員会・研究会の活動を更に旺盛にする事、事業活動の開拓と各種助成事業へのエントリー・獲得に努力を傾けること。それらを通じて、会員・賛助会員が本会に参加していることの意味やメリットを実感出来るようにしたい。ひいては、会員・賛助会員も増えて、NPO法人として量質共に発展する第一歩を築きたいと思っております。

通常総会以後、介護福祉リフォーム研究会を発展的に改組し福祉医療研究会の活動が開始され、年末にはマンション大規模修繕コンサル業務の見積依頼があり提出がされました。

新年早々には事務局の努力で、ハウジングアンドコミュニティ財団助成事業へのエントリーが予定され、続いて、NPO法人「欠陥住宅をつくらない住宅設計者の会」の尽力で、三重県消費生活センターでの「欠陥住宅の救済と予防」講演会が共催される予定です。必ずしも、すぐに成果が上がるものではありませんが、会員諸氏の貴重な努力が続けられています。

新年に当たり、更に多くの会員がこの活動に参加されますよう。心から訴える次第です。

福祉医療研究会の今後の計画

福祉医療研究会委員長 片山繁行

昨年の11月に委員長を交代し、11月12日には技術研修会と合同で、TOTOの担当者に来ていただき、トイレ、浴室などの水廻りの研修会を開催しました。最近の水廻りの考え方が良くわかり、大変興味深かったです。

今後の計画としては、①高齢者等福祉施設の見学会、②福祉施設で働いているヘルパーさんの講演会、③福祉補助金制度の研究、④進歩著しい福祉介護器

具の研究、⑤住宅リフォーム実例の研究等が考えられますが、まず最初に行いたいことは、研究会メンバーが何に興味があるのか、何を研究・研修したいのかを話し合う事だと考えます。

そこで、2月4日19時から、福祉医療研究会を開催しますので、今後の事、委員長以外の役割分担などを話し合いたいと考えますので、是非参加して下さい。

賛助会員新入会 ハウスエナジー(株)/名古屋市中東区平和が丘2-221/担当：栗原智昌/TEL052-769-1551

ハウスエナジー(株)は、気密性・断熱性・換気を根本から見直し住まいに必要な絶対エネルギー量を削減する「低燃費住宅」を進めています。また、エネルギーパスにより「住まいの燃費」の見える化を行い

ます。そうした実績をもとに、会員設計事務所の設計監理によるリフォームやマンションのリノベーションなどで「低燃費」な提案をできる施工会社です。

本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

木造住宅の構造設計は、通常「壁量計算」で行われるのが基本で、耐震要素を算出する上ではとても便利な方法ですが、基礎の配筋や底盤の厚さ、柱や梁の太さ等は分かりません。木造技術研究会で最初に用いた「ヤマベの木構造」は、前述した壁量計算以外の様々な部位についても様々な図表を用いる等、詳細に解説しており、構造計算に準じるような高度な内容となっています。

次に採用された「木造住宅のための住宅性能表示」では、特に構造部分では壁量を割増すなどの単純な方法ではなく、あくまでも壁量計算を前提としながらもより適切に構造の安全性を把握し設定する方法が提示されており、ご存知の通り税制優遇等の恩典を受けることも可能などのメリットがあります。

これら書籍を元にした例会では会員の皆様から様々な意見が出され、白熱した議論がなされることもあります。これは木造の構造設計の曖昧さに不安を持っている方が少なくなく、それらを解消するにはどうしたらよいか苦慮されていることが垣間見えます。

そもそも壁量計算とは半世紀以上前に定められた法令で、当時の状況を考えればあくまでも底上げ的なレベルでしかないものだと考えられます。これがそのまま現在まで残ってしまったこと、さらに補足する法令も追加されなかったことは大きな問題ととらえるべきです。すなわち、木造住宅の品質が半世紀前と比較にならない位向上している昨今では、構造の設計手法も同様に半世紀分向上していなければならないはずが、現状では進歩が無いままに相互の品質が乖離してしまっているのです。欠陥住宅の

調査をすれば壁量は満足しているのだからそれ以外はとやかく言われる筋合いはないと言いはる設計者・施工者も存在し、設計品質の向上とは程遠いのが現状です。但し、これは全て法令を定めなかった国の一方的な責任でしょうか。書店に行けば木構造に関する書籍は沢山あり、方向性や程度に多少の差こそあれ、それなりに情報を得ることは今まででも充分できたはずであり、それを無視し続けた住宅産業に関わる人間全体の落ち度でもあるのです。

この問題を解決する為には、木構造の設計技術を向上させる努力以外には答えは無いと考えられます。具体的には例えば書籍の内容を全て実行してしまうのも一つの手法ですし、また、あえて壁量計算ではなく、構造計算に委ねることも考えられるでしょう。しかしながら、一時的にそれを行っても、今後すべての設計業務でこれを行うのは現実的ではありません。ここで振り返ると、山辺氏の書籍やセミナーで講演している内容は決して法令で定めている方法ではなく、構造計算の手法から導きだしたり自身の経験に基づいて考案した、オリジナルの「すべきこと」を示しておられます。術研究会も「木造技術研究会の考える『すべきこと』」が提案できるようになるべきであり、そのためにこれからも様々な研究を続ける必要があると考えます。



委員会・研究会等報告

2014年1月

■相談委員会 12/17 18:00~19:00
無料電話相談の相談内容報告・意見。質疑。電話当番。例会の運営について 等。

■技術研修会 12/17 19:00~21:00
「パブリックユニバーサルデザイントイレセミナー」
講師:TOTO

■木造技術研究会 12/19 18:00~19:00

「木造住宅のための住宅性能表示」読み合わせ。
次回以降の、研究図書を選択について 等。

■忘年会 12/19 19:00~ 於:山ちゃん

木造技術研究会終了後に開催。14名参加。マンション大規模修繕見積依頼についての打合せ等。